

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

“寄り添う援助”に注目／学校法人くるみ学園 認定こども園 くるみ幼稚園

「子どもに寄り添う援助とは？」

保育者はどのような関わりをするのでしょうか？

この事例から、日常の何気ない保育場面の保育者の関わりに注目することで、子どもに寄り添う保育が見えてきます。子どもたちは主体的に遊びに向かい、体験を深めたり広げたりしています。



### ミミズ／5歳児

#### 4月

子どもたちは園内のあちこちでいろいろな虫に出会い、「この虫何？」「この虫を飼うには…」など、虫のことを自分たちで考え、行動する様子が見られる。そこで、保育者は生き物の出てくる絵本を読み聞かせていた。

##### 保育者の援助

毎日の読み聞かせにいろいろな生き物の出てくる絵本を選ぶと、アリやダンゴムシ以外にも興味が広がっていった。

その中の1冊として、「ポットくんとミミズくん<sup>※</sup>」というミミズの本を読む。その後子どもたちは、「ミミズってどこにいるの？」「僕の家でミミズ見たことある」「ミミズ捕まいたい」と園内でのミミズ探しが盛んになった。プランターをずらし、下にいないか地面とにらめっこをしながら真剣な眼差しでミミズを探す。しかしミミズは見付からない。

<sup>※</sup>[ポットくんとミミズくん](#) かがくのとも傑作集 福音館書店 文：真木文絵、絵：石倉ヒロユキ



#### 5月

畑に栽培物を植えに行った日、Sさんが「ミミズ出てくるかな？」と絵本を思い出し、砂ではなく湿った土の所を探すが見付からない。この日から、“ミミズはジメジメした所にいる”ことに興味をもち、今までと探す場所が変わってきた。何も植えていない畑、木の根っこ、花壇のそば等、みんなが掘り出した。

##### 保育者の援助

子どもの考えを受け止めて寄り添い、保育者も一緒に探す場所を広げるようにした。

しかし、なかなか見付からない。

#### 6月

保育者が見つけたミミズを虫かごに入れて、保育室の飼育物のいる場所に置いた。

#### 保育者の援助

なかなか見付からず、諦めかけていたタイミングで、あえて何も言わずに環境の一部としてミミズをほかの虫かごの隣に置いた。子どもたちが自ら気付くことにより興味が高まり、探しに行く意欲に繋がった。

毎朝登園するとすぐに虫かごを覗きにくるEさんが「ミミズだ！」と叫んだ。室内にいた子どもたちが集まり、虫かごを囲む。今まで探し続けてきたミミズを目の前にし、触ったり観察したり、離れなかった。

その後、いつものようにミミズ探しに外に出て、10分後、Sさんが「先生！ミミズがいた！」Kさんは「桜の木の下の落ち葉をめぐったらいた」Sさんが「(プランターを)どかしたらいた」と口々に言い、2匹のミミズを捕まえた。

そのミミズを虫かごに入れると、Eさんは「ご飯。これを食べるんだよ」と、得意気に見せに来た。そのご飯とは、枯葉や死んだアリだった。その中でも、虫探しや飼育に意欲的なEさんは、手に水を付け、霧吹きのようにパッパッとふりかけていた。保育者は子どもの言葉を聞いて喜び、気付いたことやミミズにしていることなどを受け止めたり一緒に話し合ったりした。



#### 保育者の援助

自分たちで見付けることができ、子どもと共にミミズの発見を喜んだ。ミミズに出合った驚きに共感したり、飼育の方法を一緒に考えたりしながら今後の展開を見守る。

見つけた日から、嬉しさのあまりクラスの子どもが代わる代わるミミズに触れ、かわいがっていた。しかし、この日は3匹とも動きが鈍いことに気付いた。

MさんやDさんが「ミミズの元気がない」「ご飯なくなっちゃったから」と言うと、Eさんは「大丈夫だよ！生きてる」と言う。

その後、Sさん、Kさんが虫かごを持つと、ミミズの為に、砂に入れ替えた。そこにMさん、Eさんが来て、Mさんは「なんで砂にしたの」と言い、Eさんは「ダメだよ！ミミズはジメジメした所がいいから砂場の砂はダメ」と、絵本で見たことを、友達に話していて「うん。分かった」のやりとりがあった。

結局その後、触られて弱ったこともあり、3匹とも死んでしまった。クラス全員で話し合う機会をもつ。



#### 保育者の援助

ミミズの死に向き合う場面を丁寧に取り上げ、一人ひとりが命について考え大切に思う気持ちがもてるように促す。

ミミズの死について振り返り、「次は大切に育てよう」という気持ちに繋がった。

なかなか見付からなかったのに、「なぜミミズが見付かったのか」と、クラス全員で話し合い振り返る。

#### 保育者の援助

なかなか見付からなかったのに、ミミズを見付けることができた体験や気付いたことなど意識し、今回の場面をクラスのみみんなで振り返り、学ぶ喜びに結び付くようにする。

Eさん：「雨が降った後で土が濡れていたから」

保育者：「濡れている所しかいないのかな？」

#### 保育者の援助

「ミミズはどこにいるのか？」という問いに迫れるように対等な立場で言い、見守る。

Eさん：「(絵本にでてきたミミズの)ポットくんジメジメしてるでしょ。だからミミズは雨の日に土から出てくるんだよ」

と、子どもなりの考えが出た。  
その後もミミズ探しや、虫探しは続いている。

## ✿ 子どもの体験

- 絵本で見たことと実際に見つけた場面の経験を重ね合わせて考えていた。
- ミミズの飼育を通して、友達の行動について自分の思いを重ねて見たり話したりしている。自分の知っていることを基に「こうの方がいい」と話し、聞く側も意味が分かり納得していた。
- ミミズが弱っていることが分かり、自分たちなりに助けようとした。（「ご飯なくなっちゃったから」と言う、土を入れ替える）
- クラス全員でミミズの死について振り返り、「次は大切に育てよう」という気持ちに繋がった。
- ミミズの生きている時にしたことや死んでしまったことを受け止め、自分の考えや気づきを表わしたり、友達の考えや気づきを見聞きしたりした。生き物との関わり方を考える体験になった。
- 飼育の仕方を考え直すきっかけとなった。

## ✿ 保育者の振り返り

見付けるまでの期間は長かったが、見付けて飼育した期間はとても短くなってしまった。保育者自身もミミズに関して飼育方法や知識が乏しかった。子どもとともに飼育しながら観察していこうと思っていた矢先の出来事だったため、とても残念である。ただ、興味・関心の高かったミミズの死は子どもたちにとって、飼育の仕方を考え直すきっかけとなった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム  
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」